

令和3年9月28日

各部局等の長 殿

高浜市長 吉岡初浩

令和4年度（2022年度）予算編成について

## 第1 予算編成のスタートにあたって

新型コロナウイルス感染症の感染拡大及びその影響は依然として続いており、様々な取り組みが実施されているが、これらの収束については、その時期を明確に見通すことが困難な状況にある。

それに伴い、地域経済が一定程度まで回復するには時間を要するものと見込まれ、税収においても、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準までに回復する時期については見通せない状況にある。その一方で、喫緊かつ最重要課題である公共施設の更新等の経費、コロナ対策経費、教育・子育て関連経費、社会保障費等が継続して見込まれるため、極めて厳しい財政状況が続くことになると予想される。

このような状況を踏まえ、本市では、厳しい予算編成になることを想定し、予算編成の準備行為として、サマーレビューにてゼロベースでの事業見直しを行った。これまでの固定概念をなくし、前例踏襲をせず、事業の必要性を検討したうえで、経常的な歳出予算の見直しを行うことで、厳しい財政状況に対し創意工夫を持って取り組む準備を進めてきたところである。

予算編成は政策形成の一つの手法であり、全ての職員が予算について主体的に考え、取り組むことが重要である。また、今後、新しい生活様式や働き方といった社会情勢のめまぐるしい変化に対し、何が求められているのか、何を見直さなければならないのかを的確に把握し、対応していく力が必要になってくる。

今までの事業を作り上げてきた経緯や想いは尊重しつつも、常に未来を見据え、変革に取り組む姿勢や意識が重要である。職員一人ひとりが各事業について真に必要なものとは何かを再認識し、知恵や経験、アイデアなど持てる力を最大限に発揮し、長期的な視点を持って、いつまでにやるかを明確にしたうえで、歳入・歳出両面からの徹底した見直し及び経常的経費の削減に果敢にチャレンジしてもらうよう強く期待する。

## 第2 予算編成の基本的な考え方

令和4年度の予算編成では、コロナ禍における限られた経営資源をより一層効果的・効率的に活用するとともに、各事業の必要性を検討し、未来を見据え真に必要なものとは何かを再認識し、それを形にしていく「**未来を見据えたスタート予算**」とし、次の考え方に基づいて予算編成を進めるものとする。

### (1) ゼロベースでの事業見直し

これまでの固定概念をなくし、前例踏襲をせず、各事業を自分事として捉え、未来を見据え真に必要なものとは何かを再認識し、経常的な歳出予算の見直しを行うこと。

### (2) 経常経費の見直し

経常的な歳出予算を見直すのはもちろんのこと、限られた経営資源の中で、効果的・効率的な取り組みが実施できるように、国県支出金を始めとする特定財源の確保を図るとともに、新たな歳入確保についても検討すること。

### (3) 重点取組事業への財源配分

サマーレビューの実施等を踏まえ、第6次高浜市総合計画における本市が目指す将来都市像の実現に貢献する事業を「重点取組事業」として予算を優先的に配分する。

## 第3 重点取組事業

令和4年度の予算編成における重点取組事業は、以下の5事業と位置づける。

1. 公共施設総合管理計画の推進につながる事業
2. 新型コロナウイルス感染症の影響に対する事業
3. 教育環境の向上につながる事業
4. 安心な子育て環境につながる事業
5. ICTを活用した行政サービスの推進につながる事業